

「災害における中学生の経験を中学生の言葉でつたえよう！」

東部市民センター

1 事業概要

令和2年度から市民企画会議「今だからこそ、地域防災を見直そう！」を開催しています。令和2年度の会議で東日本大震災当時の中学生がボランティアとして活躍したという話がありました。

このことを踏まえ令和3年度は、令和2年度の企画委員である東仙台中学校教諭の協力のもと、東仙台中学校と連携し、中学生を対象に企画会議を開催しました。企画会議の中で、東仙台中学校には開校当初から現在までの文集などに災害の経験について書かれたものが数多くあることがわかり、先輩中学生の災害の経験を朗読劇として作成し、伝承・発信することになりました。

2 今年度の活動

●市民企画会議「今だからこそ、地域防災を見直そう！」

(6月～10月開催)

学校を通して防災ボランティアとして11名(3年生5名、2年生3名、1年生3名)が集まりました。

6月30日に「校内防災探検」を実施し、学校内の危険な場所、避難所となったときに使う場所や物、火災発生時に使う物等をチェックしました。

その後、話し合いで朗読劇を実施することになり、多くの文集の中から、カスリーン台風、宮城県沖地震、東日本大震災の3つの題材を選びました。

コロナ禍であることを考え動画として作成することとなり、スライド班、ナレーション班、朗読班の3班に分かれ資料作成・練習・撮影を8月から10月にかけて8回実施しました。学校の協力で編集作業を行い、朗読劇の映像を完成させました。

●市民企画講座「災害における中学生の経験を中学生の言葉でつたえよう！」(第1回 11月10日(水) 16:20～17:20)

東日本大震災のときに東仙台中学校2年生で東日本大震災の朗読作品「生きる」の作者である先輩を招き、当時の経験を今の中学生に伝えてもらいました。また、市民企画会議で作成した動画「朗読劇」の試写会を実施しました。

第2回講座として、地域の方々との上映会を予定しています。

3 成果と課題

震災当時中学生だった先輩の体験談を通して、テレビや写真でしか震災に触れてこなかった現在の中学生が自分たちに何ができるのかを考え、理解することができたようです。動画作成を通して、災害を身近に感じ、今後防災ボランティアとして活動していきたいという意欲が見られました。

4 今後の展望

朗読劇の上映を災害対策委員会や地域の会合、センターまつり等で実施し、中学生の防災に関してどのような活動おこなっているのかを地域に広めていく予定です。また、まだ多くの災害に関する作品が中学校に残されているので、当時の中学生の体験を現在・未来に伝えることを計画しています。



校内防災探検



朗読の練習



梅田川公園での撮影



先輩の体験談を熱心に聞き、
進んで質問する姿も見られました